

伝えたかった
想いをここに



大切な人へ

第66回

助産師・患者期保健相談士 後藤 敬子 先生

母の愛を胸に、命に寄り添う助産師さんへ

中学三年生の彼女は、母親の病気のことで相談に来た。「母は子宮がんだそうです。手術をすれば大丈夫と言われましたが、心配でたまりません。母のために何もできない自分が悔しい」と大好きな母親を失うかもしれない不安で泣いていた。「つらいね。でも、泣きたいのはお母さんも一緒だと思う。そばにいてお母さんを笑顔にできるのは、娘のあなたにしかできないことだよ」と背中をさすった。

彼女が高校三年生の時「母に胃がんが見つかり、卒業後は親子で親戚の所へ引っ越します」と連絡があった。そこで働くか学ぶか悩んでいると相談されたが、話をする中で、彼女は母親との別れが近いことを悟っていて、どうしたいか心は既に決まっているようだった。「バイトして学費を貯めてから進学します」という決意に「今はお母さんとの時間を優先したのね。優

しい選択だと思うよ」と答えた。

そこから約十年後、助産師になった彼女が会いに来てくれた。「あの時母との時間を優先したことを遠回りだとは思っていません。母は、一緒にいてくれてありがとうと言って、私自身で最期をみとることができました。そして、生前はどうしたらこんないい子が育つのかしら？と冗談まじりに笑い、私を出産したことは誇りだと言ってくれたんです。助産師になりたいと話した時の、あの時の母の満面の笑顔は、今でも私の宝物です」

言葉で表せないほどの困難の中で、母親と過ごした時間や、自分の存在を喜んでくれた母親の笑顔。そこから得た経験のすべてが彼女の人生の宝物だと思います。きっと、命に寄り添うことのできる素晴らしい助産師さんになっていくことでしょう。

日本海と大地がつくる 水と命の循環

鳥海山・飛島
ジオパーク



第141回 関 観光物産課にぎわい創出事業係
☎26-5759



Hi-Chokai & Tobishima Island Group
鳥海山・飛島ジオパーク

「インクルーシブ防災」のための「やさしい日本語」

10月13日は国際防災の日です。2026年のテーマは「レジリエンス※はお家から始まる」ーつまり、家での備えが防災の基礎になります。そのため、防災情報をすべての人が理解できる形で、すべての家に届けることがとても大事です。

防災教育や、一人一人の経験が育てる「当たり前」の知識の違いです。どんな行動をとれば良いか、分かりやすい日本語で書かれた情報があれば、より多くの人の命が助かるかもしれません。

災害時に行動の判断に困るのは外国人だけではなくありません。高齢の方や障がいのある方など、何らかの理由で災害時の情報収集に困る方がたくさんいます。困った時にお互い助け合つのはもちろん、やさしい日本語で情報を分かりやすく提供することは、一人も取り残さないという意味の「インクルーシブ防災」につながります。

※災害に対する被害予防や対応を含めた総合的な防災の「回復力」



一般社団法人
鳥海山・飛島ジオパーク
推進協議会 国際交流員
カトリナ・キリンジャー氏



▲やさしい日本語について
(文化庁ホームページ)

